

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

学位申請者	鹿内 彩子 【ライフサイエンス専攻 平成22年度生】	要 旨
論文題目	Sugar Intakes from Snacks and Beverages in Vietnamese/Cambodian and Japanese Children	<p>糖類の過剰摂取は肥満や糖尿病などの疾患の原因となることが報告されており、特に異性化糖の摂取が問題となっている。ベトナム/カンボジアでは経済発展に伴い糖類の摂取が容易になってきた。しかしベトナム/カンボジアでは糖類成分表がなく、国民の糖類摂取量を算定できなかった。そこで、ベトナム/カンボジアでよく摂取されている飲食物 46 種類を選び、糖類の含量を実際に測定して成分表を作成した。ベトナム/カンボジアの子ども(7, 10, 13 才)の食事調査を実施し、この成分表を用いて糖類摂取量を明らかにした。日本の子ども対しても同様の食事調査を行い日本における糖類摂取量も算定して、比較した。</p>
審査委員	(主査) 教授 鈴木 恵美子	<p>ベトナム/カンボジアでよく摂取されている食品中のスクロース、グルコース、フルクトース、ラクトースおよびマルトースの含量を初めて明らかにし、成分表としてまとめた。</p> <p>日本とベトナム/カンボジア都市部の子どもの身長、体重、BMI は 7 才では差が見られなかったが、年齢と共に日本の子どもの方が高くなった。ベトナム・カンボジア農村部の子どもは日本とベトナム・カンボジア都市部の子どもよりも低かった。日本の子どものエネルギー摂取量が各年代で最も高かった。</p> <p>糖類の総摂取量は、日本の子どもでは 25.7 ± 16.2 g/日、ベトナム/カンボジア都市部の子どもは 26.9 ± 24.9 g/日、農村部の子どもは 17.9 ± 18.1 g/日であった。いずれの地域も総糖類摂取量は WHO が推奨するエネルギー摂取量の 10%以下であった。また、グルコースとフルクトースそれぞれの摂取量は、日本では 3.3g、3.4g、ベトナム/カンボジア都市部では 5.7g、6.3g、農村部では 1.2g、2.1g で、グルコースとフルクトースの合計摂取量が総糖類摂取量に占める割合は、日本では 26%、ベトナム/カンボジア都市部は 46%、農村部は 17%であった。</p> <p>ベトナム・カンボジア都市部では異性化糖を多く含む食品の摂取が高いことを明らかにした。</p>
	客員准教授 田中 茂穂	
	教授 近藤 和雄	
	教授 香西 みどり	
	准教授 赤松 利恵	